



次期学習指導要領に向けて

出典：「令和7年6月16日 中央教育審議会 教育課程企画特別部会資料1-1」

これまでの議論を踏まえた整理 ①

－余白の創出を通じた教育の質の向上－

【改訂を待たずに行うべきこと】

1 授業時数の見直しの更なる促進

- ① 標準を大幅に上回る1086単位時間以上の改善状況等を調査し、更なる改善方針を検討
- ② 小1～3は標準時数が1015より少ない中、小4以降を念頭に置いた「1086以上」以外の見直し水準が設定されておらず、改善に当たっての課題になっているとの指摘も踏まえ、設定を検討

2 週あたりコマ数の平準化の促進等

- ① 週あたり授業時数を年間通じて平準化すれば、教師一人当たりの持ちコマ数の減少、余白の創出につながるのではないかと。そのような取組を促進できるよう、各学校が参考にしやすい教育課程編成の具体例を提示
- ② 総則の「年間35週以上」との規定が「週29コマの授業を行う必要がある」との認識につながっているとの指摘も踏まえ、授業時数の平準化を一層促進するため、全国の授業日数の実態を踏まえた示し方を検討。併せて、年間を通じて平均的に各教科等の授業時数を配当することを前提とする趣旨の指導要領解説を改め、特定期間に集中して授業を実施できること等を一層明確化



3 高等学校入学者選抜の改革支援

高校入学者選抜の学力検査や調査書の在り方や質的改善、スクールポリシーに応じた多様な選抜を一層進める上で、どのような取組が考えられるかの検討

専心一意

実業家 渋沢栄一

人はすべて自己の勤務または責任に対しては、いかにも謹直に気を小さく持ちて、取り扱う業務には脇目も振らず、専心一意、これ进行处理して行かなければならぬ。人に貴ぶところはここにある。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」（致知出版社）

※ 日々の仕事に、生かしたいと思います。